

日印友好交流年記念事業

In-Field Studio 2017 in Santiniketan 活動ご報告

インフィールド・スタジオ（英語名：In-Field Studio、以下：IF）は、3月16日から22日まで、インド西ベンガル州・シャンティニケタンで「In-Field Studio 2017 in Santiniketan」を開催しました。

IFでは、2014年より毎年インドでの実地調査と建築を中心としたデザインワークショップを行っています。4回目の開催となる今回は、テーマを「土の色彩」とし、インド農村地域における自然環境と共生を図る伝統社会の調査と保全活動を通じて、人間生活を根拠とするより総合的な創作の端緒を見つけ出すことを目指し、リサーチと制作、連続講義からなる7日間のワークショップを実施しました。

参加者は日本から7名、西インドから14名、現地シャンティニケタンから11名の合計32名、講師は日本から3名、ドイツから2名、西インドから1名、現地ビスバ・バラティ大学から6名の合計12名、総勢44名での開催となりました。建築学、ファッションデザイン、社会学、生態学など多岐にわたる専門を持ったメンバー、またリサーチ対象エリアとなったケラタンガ村、周辺のアマルクティソサエティの様々な人との統合的な相互協力が実現しました。



村内での建設作業



最終日、村の広場での昼食会

開催場所であるインド、シャンティニケタン郊外は、アジア人で初めてノーベル文学賞を受賞したインドの詩人R・タゴールが約100年前、当時の抑圧された農村社会の再生事業と人間性の回復のための教育活動に取り組んだ地です。IFでは、タゴールが学校の創設において意図した“あるべき人間生活の希求”は、日本の岡倉天心の「総合芸術」という世界観や宮沢賢治の「農民芸術」が向かおうとした創作世界に通じていたのではないだろうかと考え、そうしたかつての偉大な試みとの連関を探りながら、さらなる発展の形を目指し、この国際ワークショップ「In-Field Studio」を企画しました。

IFは、今後も国際的な知的創作交流のプラットフォームとなることを目指しています。

<活動概要>

- 日程：2017年3月16日～22日
 - 開催地：インド・西ベンガル州シャンティニケタン郊外ケラダンガ村
及びビスバ・バラティ大学構内 (Santiniketan, Bolpur, West Bengal, 731204 India)
 - 2017年度テーマ：“土の色彩” (Going Vernacular)
 - 主催：インフィールド・スタジオ (In-Field Studio)
ビスバ・バラティ大学 (Visva-Bharati University, Santiniketan)
バローダ・デザイン・アカデミー (Vadodara Design Academy, Vadodara)
 - 後援：在コルカタ日本国領事館 (日印友好年記念事業)
公益財団法人日印協会
- *本スタジオは、外務省の日印友好交流年記念事業、また、ビスバ・バラティ大学のR・タゴール訪日100周年記念事業の一環として開催されました。

◇インフィールド・スタジオ主宰、佐藤研吾のコメント：

「現代のインドでは著しい経済成長の傍らで、地域間格差の拡大と伝統社会の崩壊が急速に進行しています。いわゆる20世紀的な“富”の普及と、“伝統”文化の解体のプロセスが表裏一体なものとして存在する中で、IFは後者の崩壊過程により向き合うことで、あるべき未来の文化、ものづくりの方向性を探求しようとしています。そしてインドの“伝統”文化の解体現場を、人類史的な視点、全地球的な着眼から見つめ直し、インドのみならず日本および世界の暮らしと文化創造に生かすことを構想しています。

今回、実際の農村に入りこみ、スケッチをしたり実物を制作したりすることは、そこに暮らす人々の慣習や文化を壊しかねない非常に挑戦的な試みでした。けれどもそのことを十分に考慮した上で、『ある地域圏を内から眺め、考え、作る』、このワークショップ『In-Field Studio』の名前にはそうした運動の意が込められています。今回特に、最終日の各チームの芝居の上演と村の人々が集まった昼食会の瞬間の躍動感を決して忘れることのできない、生活創作の全体性の一端を描き出し得ていたと感じられるものでした。全体性とは他者への想像力です。参加したメンバー全員がこの貴重な体験を通してそれぞれの日々の創作の幅を広げていくことができると考えています。

ワークショップの開催は今回で4回目ですがようやく一つの運動として本格化してきたという実感があります。運動の継続こそがこのスタジオの役割であり、運動が運動となるために必要なことだと考えています。今後もIn-Field Studioは展開していきます」

◇バローダ・デザイン・アカデミー、サパン・ヒルパラ (Sapan Hirpara) のコメント：

「これまで建築は、お金を支払う能力のある人たちのものとして、ある種の偏りを持って社会に存在していました。他方、私の所属するバローダ・デザイン・アカデミーと共同で開催された、今回のインフィールド・スタジオでは、そうではない建築の姿を導き出すことを重要視していました。人々の“手”に学びと社会への還元之机を機会を取り戻すこと。それによって描き出される社会とは、建築家のみならず様々なバックグラウンドを持つ人々が同様に貢献し、構築することができるのだと私は考えます。

本ワークショップは参加者にとって実生活の実験の場でした。けれどもそれらは、参加者自身の糧となっただけでなく、関わった全ての人たちにとっても有益なものとなったように感じています」

◇ビスバ・バラティ大学、ダリトリ・ボロ (Dharitry Boro) のコメント：

「シャンティニケタン地で、このような多彩なメンバーが集まり力を合わせて一つの創作を実現したことはとても意義深いことです。R・タゴールは「インターナショナリズムとローカリズムは分離するものではない。ヒューマニズムによって両者を横断することができる」という言葉を残しています。まさにこのスタジオはタゴールのその言葉を実現させていたのではないのでしょうか。」

■ワークショップ内容:

1、ケラダンガ村（シャンティニケタン郊外）の調査

全6グループに分かれ、村落の人々とコミュニケーションをとりながら各自関心を持った村落風景、建物の部分実測、出来事、道具の使い方、人々の暮らし方などの仔細を、スケッチや文章にして記録。その作業を通して村の総体的把握を目指すとともにメンバーそれぞれの資質と着眼点を表現。



2、1の調査で得た知見を元に模型（モデル）の制作

村の中で、村内および周辺から入手できる竹や粘土、布などを使いグループごとに着目した場所の模型を制作。実際の建物と同じ材料を扱い、同じ場所でその模型を作るとは現場の空間的な把握を図るとともに、次段階の制作の構想を共有するためのコミュニケーション媒体ともなる。



3、村内での小空間の制作、村民家の再建作業への参加

各グループが村内でそれぞれ対象とする場所を定め、竹や縄、土を用いて小空間を制作。壁の改修としての壁画制作、既存水路への小橋の設置、村の子どもたちのための休息場と遊び場の制作、そして非常時用穀物倉庫の提案などを行った。いわゆる建築スケールの空間に限らず、遊具や装飾や道具などその場所に応じた様々なスケールでの制作を試みた。



4、制作する小空間を用いた小演劇の上演（状況の構築）

期間最終日(3月22日)、それぞれが制作した空間を舞台として小芝居=パフォーマンスを上演した。村の人々が観客、また時には演者ともなり、我々の一週間の活動成果のお披露目の場ともなった。村の神話的歴史や、景観・環境に関する我々の思索を小さな物語の上演を持って表現した。



5、インド・日本（海外）の講師陣による連続講義

会期中、毎日夕方に参加講師とビスバ・バラティ大学教授による本スタジオのテーマに関連する講義を実施。全12本の連続講義はシャンティニケタンの歴史、タゴールの活動と思想についてはもちろん、建築、庭園、地理、野外芸術など多岐に渡った。



■参加講師

- *佐藤研吾：建築家、バローダ・デザイン・アカデミー助教授、日本
- *サパン・ヒルパラ (Sapan Hirpara)：バローダ・デザイン・アカデミー、インド・バローダ
- *林剛平：エコロジスト/東北大学、日本
- *はしもとさゆり：コミュニティデザイナー、日本
- *デイビット・バウワー (David Bauer)：建築家、ドイツ
- *ブレンダン・フィニー (Brendan Finney)：大工/建築家、ドイツ
- *ギタ・エキニ (Gita A Keeni)：ビスバ・バラティ大学 (以下、VB 大) 日本語学科教授、インド・シャンティニケタン
- *サンチャヤン・ゴーシュ (Sanchayan Ghosh)：VB 大、芸術学科准教授、インド・シャンティニケタン
- *ソウミック・マジュンダル (Soumik Majumdar)：VB 大、芸術学科教授、インド・シャンティニケタン
- *ダリトリ・ボロ (Dharitry Boro)：VB 大、芸術学科准教授、インド・シャンティニケタン
- *プラサンタ・ゴーシュ (Prasanta Ghosh)：VB 大、ソーシャルワーク教授、インド・シャンティニケタン
- *カイラシュ・パトリック (Kailash Pattanaik)：VB 大、言語学部教授、インド・シャンティニケタン
- *ラジ・クマール・コナル (Raj kumar Konar)：VB 大、工芸学科教授、インド・シャンティニケタン
- *マレイ・ムクホパドライ (Malay Mukhopadhyay)：VB 大、地理学科教授、インド・シャンティニケタン
- *ミロン・ドウッタ (Millon Dutta)：建築家、インド・シャンティニケタン

<IF これまでの活動>

- ・2014年3月 / 西インド・バローダで3日間のデザインワークショップ開催 (MS University と提携)
- ・2015年2月 / 西インド・バローダで4日間のデザインワークショップ開催。日本からの東京大、早稲田大、東京芸術大の学生含む計25名が参加 (Vadodara Design Academy と提携)
- ・2016年3月 / 西インド・バローダで8日間のデザイン&リサーチワークショップ開催。日本からの東京大、早稲田大、武蔵野美術大等の学生含む計30名が参加 (Vadodara Design Academy と提携)

■インフィールド・スタジオ (In-Field Studio) とは

環境風景 (field landscape) を読み取り、記録を試みた上で、「生活」に関わる自分たちの構想力と実践力を高めていくための短期学校。2014年よりインド西部バローダにて日本とインドの学生が参加する国際ワークショップを開催。2016年は、古都バローダの都市中心部にて伝統的建築物の保存と再生を実施。2017年は、農村地域における自然環境と人間生活のあり得る関係性を探る。<http://infieldstudio.net/>

■ビスバ・バラティ大学 (Visva-Bharati University) とは

20世紀初頭にインドを代表する詩人ラビンドラナート・タゴールが設立した大学。設立当初はわずか教師5人と学生6人の小さな学校で、野外の木陰に円座する形で授業が行われた。その青空教室の形式は100年が経った今でも続けられており、自然豊かな学びの環境がある。またタゴールは当時の農村生活文化の保全と再生を意図し、積極的に周囲の農村生活と結びつけた学校プログラムを実践していた。

<http://www.visvabharati.ac.in/>

■バローダ・デザイン・アカデミー (Vadodara Design Academy, Vadodara) とは

インドの西部グジャラート州の都市バローダの郊外にある、平屋の建物と緑に囲まれたいわゆる大学らしからぬ独特のキャンパスを持つ建築の専門大学。手で図面を描き、手で模型や実物を作ることを重視し、そのプリミティブを実践する。環境との対話、ないしは自身がいる場所と調和できる鋭い感性を育む教育が実践されている。<http://www.vda.ac.in/>

<本件に関する連絡先>

In-Field Studio info@infieldstudio.net